

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する改善・充実の取り組みについて

本学では、より良い大学づくりの基礎資料とするために、「卒業生アンケート調査」を平成22年8月に実施しました。卒業生の皆様に学生時代を振り返っていただくとともに、卒業後の社会生活で役立ったことや必要と思われる知識・能力、本学に期待・要望することなどについて広く意見を集めました。

その後、大学・短大自己評価委員会が中心となり、今回の調査結果から明らかになった問題点や課題について、A:教育(制度・内容)の改善・充実、B:学生生活支援の改善・充実、C:キャリア支援(資格取得)の改善・充実、D:施設等の改善・充実、E:卒業生への支援、の5項目に分類(大分類)しました。さらに、大分類の項目の下に中分類の項目を設定し、これら様々な問題点や課題に対して、大学・短大の各学部・学科、事務局・教学局の各部署において取り組むべき「現状をより改善・充実させるための具体策」についての検討を進めてきました。

そして、このほど検討策がまとまりましたので、その内容を公開します。公開にあたりましては、卒業生の皆様のみならず、厳しく客観的な評価をいただくため、広く社会(学外)にも公開することにしました。

本学では、在学生のみならず、卒業生の皆様にも満足いただける大学・短大を目指し、積極的に改善・充実の取り組みを進めていくとともに、今後も定期的に卒業生・在学生へのアンケート調査を実施していく予定です。

平成23年12月
武庫川女子大学自己評価委員会
武庫川女子大学短期大学部自己評価委員会

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-1 大学全体としての検討事項

担当部署: 教育改革推進委員会

1 学生の「自立性」を育てる教育を目指す取り組み 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>学生の「自立性」を育てる教育を目指す取り組みについて、平成23年7月の部長連絡会で学院長より提案があり、教育改革推進委員会において議題として採り上げ、論議した。「知識基盤社会」「グローバル化」「男女共同参画時代」といわれる現代の社会において、これからの女子教育はどうあるべきか、特に自立した女性を育成して社会に送り出すために、教育課程の中において、あるいは教育課程以外の課外活動の場においてどのような取り組みが考えられるかということ、全学的に検討していく必要がある。そのため、まずは広く意見交換することを目的に、8月に2回、学院上層部と各学科長が参集してフリートーキングを行った。</p> <p>「学生の自立性を育てる教育の取り組み」を進めるにあたり、教職員に方向性を示すための文言を作成することになり、その原案を教務部から提案することになった。9月26日の教育改革推進委員会において、新たな方針を示すための文言について教務部で作成した資料原案をもとに議論された。継続審議となり、10月31日の教育改革推進委員会でも呼称及び文言について議論された。その結果、本学の「立学の精神」、「教育綱領」、「教育目標」とは別に明文化したものを印刷物に入れられるよう、原案を作成することとなった。11月28日の教育改革推進委員会において、呼称は「教育推進宣言」とし、宣言の内容は「教育目標実現に向け、自立した学生を社会に送り出すため、主体性・論理性・実行力を培う女子教育に教職員一丸となって取り組みます。」と決定された。この「教育推進宣言」を12月7日の合同教授会において、全教員に対して学長より説明、宣言を行った。今後の印刷物に掲載するとともに、広報室を通じて学院ホームページ等を通じて発信していく。</p> <p>今後も教育改革推進委員会を中心に、問題点を洗い出しながら、具体的にどのような形で取り組んでいくか、更に議論を重ね、検討を進めていく。</p>	<p>平成23年度 5</p>	<p>今後とも継続して 取り組んでいく</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-1 大学全体としての検討事項

担当部署:教育改革推進委員会

2 「クラス担任制」の効果的な運用 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>クラス担任制についての今後の取り組みの参考とするため、平成22年度に各学科における担任業務を具体的に把握するため、現状を調査した。具体的には、3年生以上の学生に対する指導を学年担任、クラス担任、研究指導教員のいずれが行うかといったことや、2年生の担任の問題点、その他担任制についてのご意見等を質問した。その回答結果を見ると、3・4年次を学年担任としている学科においても、ゼミ等卒論指導教員と役割を分けて学生指導ができるよう工夫されていることがわかった。しかし、大学・短大とも2年次においては、ゼミ等指導教員がいない状況で学生指導を行うことが難しいという学科が多かった。</p> <p>今後は、担任ハンドブックに記載している指導事項を実際に担任が行っているか、また、それ以外に行っている担任業務で、他学科へも参考となるような事項がないかなどについて調査し、担任ハンドブックに担任が行うべき業務をチェックリストとして掲載していくことを検討していく。</p>	平成22年度 5	平成25年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-1 大学全体としての検討事項

担当部署:教育改革推進委員会

3 「初期演習」の効果的な運用 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>「初期演習」については、初年次教育実施の一場面として捉えている。そこで平成20年度から初期演習のシラバスは、全学統一性の部分と学科独自性の部分の大まかな2部制とし、前者を前期に、後者を後期に振り向けるよう各学科に対して依頼している。そのため初期演習ハンドブックを作成し、実施メニューの例を示している。前期の内容としては、大学生活のオリエンテーション、本学学生としての自覚を促す内容、キャリアプラン形成のための内容、大学で学ぶためのスキルを向上させるための演習などを行い、後期の内容としては専門領域への導入として各学科独自メニューを作成している。</p> <p>また毎年、1年生担任へはアンケート調査を実施して効果を確認し、各クラスの最も効果的だった実施内容を取りまとめ、その抜粋を冊子として次年度の新1年担任に配付し、より効果的に運用できるよう配慮している。</p> <p>今後は、学生の「自立性」を育てる教育を目指すことも踏まえ、初期演習において取り組むべきことを継続的に検討していく。</p>	平成20年度)	平成25年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-1 大学全体としての検討事項

担当部署: 語学力強化検討委員会

4 「外国語教育」の推進 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>平成23年度の教育改革推進委員会において、語学力強化の取り組みを具体化するため、各学科から選出された委員によって構成された語学力強化検討委員会を設けることが決定され、平成23年7月より定期的に委員会を開催している。</p> <p>委員会の活動としては、現状の問題点の分析を行い、現在は具体的な改善策の検討に入っている。教育改革推進委員会に諮問する改善策の決定は年明けの平成24年になる見込みである。</p> <p>現状分析に際しては、各学科の「平成10年度から現在までの語学関係のカリキュラムの推移」、「現状の語学科目の内容」、「語学関係卒業要件」、及び「近隣大学における語学科目の諸要件」の資料を踏まえ議論を重ねている。また他大学での取り組み事例、社会人における語学力の状況などを報じた雑誌・新聞報道なども参照している。</p> <p>現在までの議論を通じ、「語学力強化については、当面大学生を対象とし、対象言語は英語が中心になるものの、その他の外国語も考慮する。」ことを確認している。</p> <p>語学力の強化策に関しては、全学生に関わる部分、意欲・能力に優れた学生に関わる部分、英語を苦手とする学生に関わる部分のそれぞれを如何に踏まえるかが議論の焦点となっている。</p>	<p>具体策の作成・決定および教育改革推進委員会への答申は、平成24年2月を目標としている。</p>	<p>当委員会での検討する具体策は、教育改革推進委員会への答申という位置付けであるため、達成時期については、教育改革推進委員会での審議状況に依存する。</p> <p>ただし、具体策には取り組みのロードマップも含めて答申する。</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-1 大学全体としての検討事項

担当部署: 教育改革推進委員会

5 「ゼミ」教育の推進	【取り組み時期】	【達成時期】
<p style="text-align: center;">【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p>(大学・短大共通)</p> <p>平成23年1月24日の常任理事会において、理事長より、「学生に問題解決力やコミュニケーション力など、しっかりとした力をつけさせて卒業させる必要があることから、4年間においてゼミ形式の授業を行うなど、本学でも何らかの検討が必要ではないか」との問題提起がなされた。常任理事会で議論された結果、いち早く対応することが重要であるため、教務部で本学の実態を調査することとなった。あわせて、他大学での動きや実態を調査することになった。</p> <p>教務部において調査した他大学での状況及び本学での教室並びに時間割についてシミュレーションを行った結果をもとに、本学でのゼミ実施に関する資料を作成した。平成23年3月28日の常任理事会において資料説明を行った結果、教育改革推進委員会において、カリキュラムのスリム化とともにゼミ形式による授業の実施について議論していくこととなった。そこで、教育改革推進委員会の「平成23年度以降の検討課題」としてゼミ等演習形式による授業を採り上げ、特に2年次ゼミについて議論を進めることとなった。</p> <p>他方、卒業生アンケート調査結果からも、学生に社会に必要な能力を身につけさせるために、より自立性、主体性、積極性を重視した教育が求められていることがわかる。その対応として2年次ゼミの充実が必要との認識に立って、「2年次におけるゼミ等演習形式による科目の調査」を行うこととし、各学科において、2年次ではどのような狙いで科目を設定されているか、また、</p> <p>(1) 学生が、専任教員と意見交換し、指導が得られる科目 (2) 学生に問題解決力やチームワーク力、コミュニケーションスキルなどを身につけさせることができるような科目</p> <p>といった内容を含んだ科目を開講しているかを調査することとした。そのように本学の現状を把握・勘案して、ゼミ等演習形式による授業について、カリキュラムの見直しや演習室の確保としてアクティブラーニング教室の整備などとともに検討を進める。そのため、教学局長を中心としたワーキンググループを設置し、今後、2年次ゼミについて様々な角度から実施原案を検討していく。</p>	<p>平成22年度 5</p>	<p>平成25年度</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-1 大学全体としての検討事項

担当部署:教育改革推進委員会

6 適切な成績評価	【取り組み時期】	【達成時期】
<p style="text-align: center;">【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p>(大学・短大共通)</p> <p>「学士力」を身につけた学生を卒業させるため、成績評価の厳格化が求められている現状において、非常勤講師から成績評価や採点に関する問い合わせがあっても、本学にはこれまで根拠となる規程がなかった。教育改革推進委員会へ問題提起がなされ、成績評価に関することについて規定化することとなり、「武庫川女子大学及び武庫川女子大学短期大学部の成績評価に関する規程」の原案を教務部で作成し、教育改革推進委員会及び評議会での議論を経て、規程の整備（平成24年4月施行）を行った。この規程は、本学が実施する授業科目の成績評価における妥当性、信頼性及び公平性を確保し、学生の計画的な学習を奨励することを目的としている。今後、教員及び学生に対して周知を図り、大学及び短期大学部として、より適切な成績評価に努めていく。</p> <p>また、平成19年度の教育改革推進委員会において、組織的に厳正な成績評価を行うこと並びに成績情報の公開について検討することになった。公開する場合の意義及び目的について等、具体的な検討をFD推進委員会へ諮問した。FD推進委員会において検討された結果、平成21年度の教育改革推進委員会に答申書が提出された。その答申書に対して、各学科にアンケートを行った。その結果を踏まえて、一部の学科を除き、平成21年度後期・特別学期の成績情報を学科専任・嘱託教員間のみ公開することとし、各学科長へ配付した。平成22年度前期の成績情報からは、すべての学科で公開している。</p> <p>今後は、上記取り組みの効果についての検証を踏まえ、公開対象を非常勤講師へも拡大させるのか、学生に対しても公開していくかなど、FD推進委員会を中心に検討を進めていく。</p>	<p>平成23年度 S</p>	<p>平成25年度</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-1 大学全体としての検討事項

担当部署:教育改革推進委員会

7 「特別学期」の効果的な運用		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>平成23年度からの特別学期特別教育科目の改善・改革に向け、平成23年3月の大学・短大評議会 で決定された「特別教育科目運営基本計画」をもとに、卒業時に必要とされる「学士力」や「社会 人基礎力」を修得させるための科目を開講していく。具体的には、特別教育科目設定の趣旨、理念 及び特別教育科目のめざすところを挙げている。特別教育科目のめざすところとしては、学生の主 体的・自立的な「自己教育力」の開発・伸長を期待して、「教えこむ」という面より「学びとる」と いう面を強調するとともに、学生が健康で充実した学生生活を過ごし、通常のカリキュラムでは実 施できない内容を盛り込む。よって特別学期では、個々の学生の多様な学習欲求や社会からの要望 に対応して、以下の内容を主とする特別教育科目を設定し、学生に多様な選択の機会を与え、バラ ンスのとれた人間教育を行っていくこととした。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生の内発的要求にかなうもの ② 共同研究やフィールドワークなどを通じて協調性や指導力などの資質を磨くもの ③ 情報を正しく収集して現実の社会を理解する力を身に付けるもの ④ 学生の健康・体力づくりを支援するもの ⑤ 専門分野の研究などを通じて自己と社会との関わりについて考えを深め、前に踏み出す力となるもの ⑥ 望ましい職業観・勤労観、職業に関する知識・技能、進路選択に必要な能力や心構えを養うもの ⑦ 専門教育科目の授業内容を理解する上で必要である基礎学力の不足を補うもの <p>これらの特別教育科目は、全学プログラムと学科プログラムとから構成されている。 全学プログラムとして、「教養講座(講義、実習)」、「健康・体力づくり講座(実技)」、 「資格対策講座」、「キャリア教育講座」、「特別講座」、「研究プロジェクト提供講座」及び 「リメディアル教育講座」の7種を開講し、企業や専門学校からの講師派遣を充実させる。特に、 「リメディアル教育講座」では、入学時の基礎学力テストの点数が低かった1年生を対象として開 講し、基礎学力の向上を図る。 学科プログラムは、当該学科のすべての学年の学生が受講できるよう、科目名・コマ数、履修学 年の設定や履修を義務付ける科目を設けるなど、開設にあたっての工夫を学科へ求めている。</p>	<p>平成22年度)</p>	<p>平成25年度</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-1 大学全体としての検討事項

担当部署: 共通教育部

8 「共通教育科目」の効果的な運用	【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通) 平成23年度より、以下に示す新たな理念と科目区分で共通教育を実施している。</p> <p>【理念】 歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化が激しい現代社会において的確に判断できる知性及び知識、技能の習得、真摯な学習と実践を通じ、思いやりの心と豊かな感性を持つ自律的な個人の確立を目指す。さらに、専門教育との有機的な連携に努力し、卒業後、様々な分野で社会をリードする女性として成長する。この目的のために、以下に示された5つの「MW教養コア」について、バランスのとれた学習と研鑽に努力する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人文、社会、自然の各分野における人間理解に関する広い知識と学ぶ態度の修得 2 自らの健康への理解を深め、生命の尊さ、倫理観に関する知識・態度の向上 3 ジェンダーの視点の理解と主体的な判断力・行動力の獲得 4 自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力の育成 5 異文化を理解し、グローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識の習得 <p>【科目区分】</p> <p>①基礎教養科目群(人文科学、社会科学、自然科学、国際理解、現代トピックスの各科目) ②ジェンダー科目群 ③キャリアデザイン科目群 ④言語・情報科目群(言語リテラシー、情報リテラシーの各科目) ⑤健康・スポーツ科目群(健康・スポーツ科学、スポーツ実技の各科目) ⑥短大・初年次ゼミ(学び発見ゼミ)群 (注)左記の区分名は平成24年度より実施 ⑦放送大学 ⑧その他の単位互換協定科目</p> <p>平成23年度以降は上記の理念・科目区分に沿って改善改革を継続的に行うことにしている。 現在、全般的には順調に推移しているが、前期終了段階で注目される点は、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)全般に履修率がやや低下している。 (2)2年次対象「論理的思考法Ⅱ」への当該学年からの履修希望が当初の予想ほど多くない。 (3)短大・初年次ゼミへの履修希望が極端に少ない。 <p>以上の点について、</p> <p>(1)は、履修希望者の大半を占める1年生にCAP制が導入されたことが影響している可能性が高い。また、CAP制を踏まえたMUSES上の抽選ルールと関連している可能性があるため、システム担当との意見交換を行い、改良の可能性を検討する。 さらに、次年度より履修登録期間を実質的に拡大するため、基礎・専門・資格課程科目と同じにする。この結果、抽選による履修確定後も定員に余裕のある科目に追加登録が可能になる。</p> <p>(2)は、担当者とも現状分析を行い、学年指定の変更を検討している。具体的には、大学での指定を3年次以上とし、就職活動との関連性からも広報を強める。この結果、論理的思考法はⅠが1年、Ⅱが大学3年以上となり大学2年次がブランクとなるため、 現行のⅠ、Ⅱの間を埋める科目の新設を検討する。</p> <p>(3)は、平成23年度は後期からの開講であったため、前期にガイダンスを行ったものの、1年生への浸透が十分でなかったことによると思われる。7月に案内パンフレットを配布したが、後期は履修登録期間が担任ガイダンス前から始まっていたため、広報のタイミングを失ったことも影響している。 平成24年度は前期から開講する予定をしており、学生への浸透度は改善されると思われる。また、学生の意見も踏まえ、複数の初年次ゼミの科目名を「学び発見ゼミ」とするのではなく、担当教員のシラバスを反映した科目名として学生が内容を把握しやすくするとともに、受講対象者を全学科の学生に広げ、学年も1年生に限定せず2年生も受講可能とする。さらに、次年度担当者との意見交換会を設け、当該科目の趣旨と学生主体の授業展開について共通理解を図る。</p>		<p>平成23年度の状況 分析と改善策の策定 を本年12月までに 行う。</p>	<p>平成24年度から改 善策を実施する。</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 日本語日本文学科

1 FDの実施について 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>学科内で随時FDに関する勉強会を開催している。 勉強会のテーマについては、主に以下のような問題について討議し、学科に所属する教員全員の課題意識と共通理解を促進するように努めている。</p> <p>【学科内FD勉強会で取り上げたテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 日本語日本文学科のカリキュラムの趣旨・構成に対する理解について○ 全体の中における自分の担当科目の位置づけについて○ 科目間の連携について○ 成績評価基準等について	平成23年度	今後も継続して 取り組む

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 英語文化学科

1 FDの実施について	【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
(大学・短大共通)	<p>数年前よりコーディネータ制を採り入れ、各コーディネータのもとに各領域の授業科目の内容や評価方法を検討している。さらにそれを充実したものにするために、授業担当者が集まって問題点を出し合うことが必要であることから、平成24年度のシラバス作成の前に各領域の授業担当者を集めて改善点を議論し、意思統一を図っていく。</p> <p>外国人の非常勤講師に対しては、コーディネータの講師が授業参観をして指導している。この授業参観によって外国人講師の授業全体がひきしまっている。参観の結果出てきた問題点と改善すべき点を学科会に報告してもらっている。</p> <p>英語特別クラス (ACE) が設置されて、英語による授業が行われている。学生がうまくその授業についていっているのか、授業についていけない学生にはどのような個人指導が必要なのかを探らなければならない。学生の成績や取り組み姿勢を勘案し、教員間で、英語能力が上位ではあるが、厳しい授業環境に耐えられない学生の指導が今後の課題と考えている。</p>	<p>平成19年11月～</p> <p>平成23年4月～</p> <p>平成23年度</p>	<p>定期的に反省会を実施し、継続的に改善点を議論する</p> <p>継続的に実施する</p> <p>随時検討する</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:教育学科

1 FDの実施について 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>平成23年度より新たに学科FD委員会を組織し、学科独自のFDを推進する体制をつくった。 学科FD委員会では、まず学科カリキュラムの構造を再検討し、その構造を学科教員全員が共通理解するところから出発する必要があると考え、そのための3回の研修会を下記日程で開いてきた。</p> <ul style="list-style-type: none">①10月26日(水)……学科カリキュラムの構造の検討と理解促進を図るための研修会②12月14日(水)……「教職実践演習」の授業内容・実施状況の報告と意見交換会③2月22日(水)……「教職実践演習」の授業改善のための意見交換会 <p>これによって、各教員が自分の担当する科目の位置づけを確認し、その科目の中で必ず教えなければならないことや他の教員の授業との連携を確認し、教育学科全体として体系だった教育の実現をめざしていく。</p>	平成23年4月～	平成24年3月

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:心理・社会福祉学科

1 FDの実施について 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>全学的なFD推進委員会委員に選出されている本学科のFD委員がを世話役となって、学科FD勉強会を実施している。毎回スピーカを立て、学科の学生の状況を踏まえたうえでの授業の工夫について、話題提供を行い、その後参加者によるフリーディスカッションを行っている。一般論としての話ではなく、具体的な話がいろいろ話題にのぼるので、参加者にとっても、非常に有意義な議論になっている。</p> <p>また本年度（平成23年度）において、次年度の学科パンフレットを作成するチームを若手教員中心に構成し、学科パンフレットを作成する過程における、さまざまな議論がまさしく本当の意味でのFDになっていたとの評価を参加教員から得た。</p> <p>現状の問題点としては、学科教員全体に参加を呼び掛けているが、参加者が多いとは言えず、その参加メンバーも固定していることが挙げられる。その理由としては、学科教員全体にまだFDの重要性が認識されていないことがある。これについては、今後も忍耐強く参加を呼びかけ、FDの重要性・必要性についての認識を改めてもらうことをめざしていく。また、勉強会が5限に設定されることが多く、補講あるいは他の用務等で参加したくても参加できない場合もある。そこで、本年度（平成23年度）からは重要なテーマについては、学科会議のない水曜日4限に勉強会を設定し、できるだけ多くの教員が参加できるように環境を整えている。</p>	平成22年度～	平成24年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:健康・スポーツ科学科

1 FDの実施について 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>教育内容や研究指導の改善を図るために、学生と教員との懇談会などを実施する。学生と教員との懇談会は学生主導で定期的に行い、学生の授業や研究指導、学科運営への要望や意見を聞き、学生からの具体的な指摘に対しては直ちに対応する仕組みを構築していく。</p> <p>教員同士が講義の方法と内容について意見を述べ、改善方法を示唆することができ、教員のFD活動の組織的な取り組みが実現でき、すべての科目の授業について学科教員の参加する研修を行い、授業内容及び方法についての相互評価を行い、忌憚のない意見を述べてもらうことにしている。</p> <p>また優れた授業については、その特長を取り上げ、他の教員の授業への取り組みの指針とすることで、授業全体のレベルアップを図っていく。</p>	平成23年度1年間を かけ、各項目ごとに 若手教員を入れて検 討を行う。	平成25年度完成

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:生活環境学科

1 FDの実施について		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>FDの(広義の)定義を、「教育内容の改善・充実への試み」と解釈しており、これについては既に日々取り組んでいると考えているが、より強化するために平成23年度より、学科内職務分担をヒエラルキー(階層)型の構造としている。これにより、教育内容に関する重要項目について、誰が中心となって責務を感じつつ課題のチェック・改善方向の立案をするか、ということを経験として強化しようと試みている。</p>	平成23年度～	今後も継続して 取り組む
<p>(大学)</p> <p>アンケートでは教育目標が明確な学科(例えば教育、薬学など)ほど、満足度が高い状況がある。生活環境学科は教育内容が多岐に渡るため、ともすると学習目標が曖昧になることが懸念されるが、このような状況への対応のひとつとして、平成23年度より大環1年初期演習内容の改革として、早期に目標を見出せるようなプログラムを採り入れつつある。具体的には、1年次より、専門分野の解説だけではなく、職能的・学問的面白さに触れる機会を増やすよう、工夫を試みている。</p>	平成23年度～	今後も継続して 取り組む

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 食物栄養学科

1 FDの実施について		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
(大学・短大共通)		
<p>1. 授業公開</p> <p>第一段階として、学科全教授の授業公開を行う。これにより公開に対するアレルギー意識を払拭する。続いて、准教授・講師の授業のうち申し出のあったものについて公開する。最終的に全教員の授業がいつでも自由に参観できる状況を作り出す。</p>	平成23年度	平成24年度
<p>2. ミーティングサークルの結成</p> <p>食物栄養学科、食生活学科は、授業クラス数が多く同一教科を複数教員で担当することが多い。また、通常教科は関連する複数の教科でグループ化されている。したがって、これら教科を担当する教員でミーティングサークルを結成し、授業法改善、成績評価基準、科目間連携などについて率直な話し合いをスタートさせる。</p>	平成24年度	平成25年度
<p>3. 学科FD委員会</p> <p>ミーティングサークルの活動を通して、学科FD委員会を活性化する。すでに食物栄養学科・食生活学科共通の学科FD委員会は結成されているが、メンバーを固定的に考えることはせずに、活動的ミーティングサークルのメンバーを随時加え、情報の公開や経験の共有を学科レベルで進めていくことにしている。</p>	平成24年度	平成26年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 情報メディア学科

1 FDの実施について	【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
(大学)			
(1) 学科FD 現在、学科としては、卒業生アンケートの結果も加味して、将来を睨んだ人材育成方針、そのために必要なカリキュラム・授業内容、教員構成を含む教育体制等について全員で議論を重ねている。その過程で、教員の専門領域の確認、周辺領域、その他の分野のファカルティについて洗い出し、今後の能力開発の可能性を探るとともに、意識を高めるさまざまな取り組みを実施している。		平成23年度	平成24年度以降 逐次実施
(2) 全学的なFD 学科としてFD委員会が打ち出す施策に協力していきたい。そのため、下記の点については改善に向け、教育改革推進委員会やFD推進委員会等へ問題提起したいと考えている。 ・ 全学的なFDと学科FDとの関係、役割分担等を明確にする必要がある。 ・ 大学全体として整えるべき授業環境、公開授業のあり方等、様々なレベルの問題を整理し、全体水準を上げるためのさらなる工夫が必要である。 ・ 授業アンケートは、結果をどう授業に活かすか、という観点からの改善が必要である。 ・ 授業のあり方についても、全学的な議論が必要である。わかりやすい授業とは何かといった基本的な問題について、教員の間でコンセンサスを得る必要がある。 ・ 成績評価や到達目標の水準についても、全学的なコンセンサスを得る必要がある。		平成23年度	平成23年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 建築学科

1 FDの実施について	【取り組み時期】	【達成時期】
<p style="text-align: center;">【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p>(大学)</p> <p>※ <u>建築学科は平成18年度開設のため、今回の卒業生アンケート調査の回答者には建築学科の卒業生は含まれていないが、現在行われている学科での取り組みを以下のとおり記載する。</u></p> <p>建築学科のカリキュラムは、授業時間の約半数を占めるスタジオ教育である設計演習を中核としており、他の講義やフィールドワークは、設計演習と相互に関連している。そのため学科のFDは、設計演習の成果の発表会として、原則として半期に3回ずつ行う講評会において主に実施している。</p> <p>講評会においては、学生だけでなく教員、助手も自らの設計案をプレゼンテーションし、学生の模範となりうる案であるかどうか他の教員によって評価される。学生の発表は、担当教員のみならず、他の教員や外部講師による講評を受けることにより、学生だけでなく担当教員の評価も行う。さらに教員の講評自体も、他の教員からの評価の対象となる。これらの評価について、教員相互の議論を行うことを通して、設計教育を担う教員の資質の向上も図る。</p> <p>なお、スタジオ教育の集大成として位置付けている卒業研究(卒業設計、卒業論文)の発表会も同様である。</p>	平成18年度	継続的に実施し、教員の資質向上をはかる

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 音楽学部

1 FDの実施について 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学)</p> <p>演奏、応用音楽の両学科ともに、入学時点において専門的に音楽を学ぶ上で必要な基礎知識・能力の差が問題となっている。</p> <p>演奏学科では、個人実技レッスン科目においては、担当する教員により差が生じないように、科目担当者間で到達目標・課題の見直し、試験方法などについて、各期毎に検討する機会をもち、現在よりもさらに効果的なレッスンを目指している。</p> <p>また1科目複数クラス開講（能力別クラス）の科目担当者間においても、授業の進捗や課題等の検討会議をもって、より良い授業を模索する。</p> <p>応用音楽学科では、実習報告会を実施している。小グループに分かれて体験する音楽療法の実習において、指導者や環境による偏りが生じるのを避け、学生の共通理解を進めるため、学生が一同に集まって行っている。この報告会によって、担当教員間で学習目標や評価基準を共有することができ、公平な学習環境の提供と評価に繋がっていると考えている。この取り組みに対し、年度末にその年度における効果を分析・検証し、次年度以降の方策の改善を行っていく。</p>	平成23年度	各年度毎に効果検証を行う

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 薬学部

1 FDの実施について	【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学)</p> <p>薬学部では、平成20年度から学部内に学部FD委員会を設けている。学部内でのFDの開催は当該委員会（教授、准教授、講師6名が委員）が中心になり、学部教員が参加すべき企画から実施を行っている。以下に平成20年度からのFDの日程、テーマを記載する。</p> <p>平成20年4月23日 テーマ：最近の学生に対して我々が感じている問題点</p> <p>平成20年8月9日 テーマ：薬剤師国家試験対策</p> <p>平成21年9月30日 テーマ：長期実務実習に関する学内FD 第1回</p> <p>平成21年10月14日 テーマ：長期実務実習に関する学内FD 第2回</p> <p>平成21年11月11日 テーマ：長期実務実習に関する学内FD 第3回</p> <p>平成22年2月22・23日 テーマ：長期実務実習に関する学内FD 第4回</p> <p>なお、平成23年度については、後期中の実施を予定している。</p> <p>上記以外に、平成22年2月に取り纏めた「2009年度武庫川女子大学薬学部自己点検評価報告書」や半年ごとに行っている幹事懇談会もFDにあたると思っている。</p>	<p>平成20年度から取り組みを行っている</p>	<p>継続的に実施する</p>	

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 日本語日本文学科

2 「専門教育」の教育内容、履修方法等の改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>調査結果から、他の学科に比べて本学科卒業生がやや不満を抱いていたのは、主に以下の点である。その点に対する改善策もあわせて記載する。</p> <p>(大学)</p> <p>①実習や研修などから学ぶ機会があまり用意されていなかった (改善策)すでに学科独自のインターンシップを実施するようになってから久しい。また、約10年前から国内の日本語学校での日本語教授法実習を実施しており、5,6年前からは同実習を韓国の韓南大学校でも実施している。さらに、平成23年度からMFWIでの海外文化体験演習も実施する予定である。</p> <p>②授業科目が学びや資格取得で担う役割をあまり理解できていなかった (改善策)数年前からシラバスに明記しているが、今後は学生に履修便覧やシラバスを精読させる指導を強化する。</p> <p>③それぞれの授業科目における到達目標があまり明確に提示されていなかった。 (改善策)数年前からシラバスに到達目標を明記している。今後は、初回の授業で口頭でも詳しく説明するようになる。</p> <p>④予習や復習をしていることを前提とした授業がそれほど多くなかった。 (改善策)プリント配布等が多い現状を改め、予習や復習がしやすいよう、できるだけ教科書を使った授業をするようにする。</p> <p>(短大)</p> <p>①実習や研修などから学ぶ機会があまり用意されていなかった。 (改善策)10年前から「実用書道」「話し方の実際」「実用文の実際」「漢字表記の実際」「文学実地研究」等、実習や実践から学ぶことをねらいとした科目を相当数設けている。また、平成23年度よりMFWIでの海外文化体験演習を実施する予定である。</p> <p>②問題解決力があまり身につかなかった。 (改善策)初期演習の授業内容や丹嶺トレーニングプログラムの内容を、問題解決力が身につくようなものに改善する。</p>	平成23年度	平成23年度
	平成24年度	平成24年度
	平成24年度	平成24年度
	平成24年度	平成24年度
	平成23年度	平成23年度
	平成24年度	平成24年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 英語文化学科

2 「専門教育」の教育内容、履修方法等の改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
(大学・短大共通) ビジネス・コミュニケーション系にとって「ビジネス・イングリッシュ」はコア・科目である。現在その教材開発が進んでおり、テキストとして出版する予定である。平成24年度は独自の新教材を使って「ビジネス・イングリッシュ」の授業を行っていく。 平成20年に出版した『MUKOGAWA English Grammar』は、短大の「コミュニケーション・グラマー」と大学の「活用文法」のテキストとして使用している。再版を前に平成23年度末には改訂・増補版を出版する。 フォートライトの教員に書き下ろしてもらったリーディング教材に読解問題や読解のための脚注を加えるなどして整備し、副読本『MUKOGAWA Reading Comprehension』を出版する。このテキストは初期演習の課題として使用する予定である。	平成22年4月～ 平成20年3月出版 現在改訂中 平成23年4月～	平成27年3月 平成24年3月 平成24年3月

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:教育学科

2 「専門教育」の教育内容、履修方法等の改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>現在、カリキュラムや教育内容の大改革中であるが、その代表的なものを以下4点示す。</p>		
<p>① 小学校教諭をめざす学生に、しっかりした教科の力をつけるため、「教科に関する科目」の単位数を2単位から以前のように1単位に戻す。 (これにより、免許取得に必要な科目数が4科目から8科目になる)</p>	平成23年4月～	平成24年3月
<p>② 学科の英語科目・外国語活動の科目の内容や指導方法を大きく改革する。 (「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」の必修化) (「英語Ⅱ」の半分をネイティブの教員が担当する) (教材に教育関係のトピックを使用する)等</p>	平成23年4月～	平成24年3月
<p>③ 2年次より、取得する免許・資格に応じた系別クラス分けをする。 (同じ免許・資格を希望する者のクラスになるため、時間割が組みやすくなり、授業のコマも軽減できる) (新クラス・新担任になるため、2年前期に「2年次演習」を新設、丹嶺シブツカラムも2年前期に実施する)</p>	平成22年9月～	平成24年3月
<p>④ 保育士資格取得のための法的基準が大きく改定されたため、保育士課程のカリキュラムを改訂する作業を進めている。</p>	平成22年9月～	平成24年3月

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 心理・社会福祉学科

2 「専門教育」の教育内容、履修方法等の改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p><大学></p> <p>心理コースにおいては、以前より、専門科目の多様性の拡充、カリキュラムの更なる充実を期待する声が生徒から多く寄せられていた。この点については、学科としても至急に改善すべき課題として取り組んできている。</p> <p>しかし、この問題の背景はそれほど単純ではなく、本学科が心理コースと社会福祉コースによって構成されているという学科構造上の問題に根差す部分も大きい。また、週当たりの開講コマ数の上限やキャップ制といった教務上の制限に起因する部分もある。</p> <p>したがって、一朝一夕に解決することはできないが、手をこまねていることは許されず、できることから改善・充実の取り組みを進めている。幸い平成23年度には心理領域の教員の増員が図られ、また教務部の理解もあり、科目を新設することができた。しかし、これでもまだ十分とはいえないので、今後も一層の充実を目指して取り組みを進めていく。</p> <p>また、現在2年次から心理と社会福祉のいずれかにコース分けする方法についても、抜本的に再検討する時期に来ており、その作業に平成23年度よりとりかかったところである。これについては、時期を失することなく、平成24年度には結論を出す予定である。</p>	平成21年度～	平成24年度
<p><短大></p> <p>人間関係学科は、平成23年度新カリキュラムによる新入生を迎えた。この新カリキュラムが完成するのは平成24年度になるため、1年次途中での中間評価になるが、新カリキュラムが目指したところが、少しずつ結果となって表れてきているのではないかと考えている。</p> <p>たとえば、1年前期に開講される「女性のライフステージとキャリア」は新カリキュラムのコアとなる重要な科目であるとの位置づけの下で授業を実施し、受講学生からも自分のこれからのキャリアを考えるきっかけになった、など好意的に受け止められた。その一つの成果として、夏休みのインターシップに多くの本学科1年生が参加したことが挙げられる。</p> <p>平成24年度開講予定の科目には、「プロジェクトマネジメントの実践」など、他の短大では例のない参加型の実践科目も取り入れているので、その成果の推移をしっかりと見守っていくこととしている。</p>	平成22年度～	平成24年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:健康・スポーツ科学科

2 「専門教育」の教育内容、履修方法等の改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
(大学・短大) 学科において、学生の志望動機があいまいなまま資格を取得する学生が多くなってきたこともあり、多くの授業科目を履修しすぎて将来の方向性も明確でなく、またゆとりがなくなってきている。カリキュラムの改善の必要性を感じるものの、学生が目指す進路に応じたカリキュラムの履修を考える指導が重要である。その指導の一つとして、学生が希望する資格取得のために「履修モデル」を作成し、入学時の履修指導に活用する。 指導方法の改革とともに、現状のカリキュラムに足りないものがあれば教員を中心に協議を行ってカリキュラムの改善を図っていきたい。	平成23年度実施	平成24年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:食物栄養学科

2 「専門教育」の教育内容、履修方法等の改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学)</p> <p>1. 専門教育の基礎教育科目に関して、教科内容と開講期の再検討を行い、新入生がスムーズに専門科目に進めるようにする。</p> <p>2. 専門教育科目は管理栄養士養成に必須の教科が大部分であり、その内容は細かく規定されている。基礎教育科目との連携で専門教育科目の体系的教育がなされ、学生が教科の修得目標を達成できるよう、特に開講期の再検討を行っていく。</p>	<p>平成24年度</p> <p>平成24年度</p>	<p>平成25年度</p> <p>平成25年度</p>
<p>(短大)</p> <p>1. 基礎教育科目の教科数、教科内容の見直しを行い、新入生がスムーズに専門科目に進めるようにする。</p> <p>2. 専門教育科目は栄養士養成に必須の教科が大部分であり、その内容は細かく規定されている。しかしながら大学食物栄養学科の編入制度発足を見据えて、短大専門教育科目と大学専門教育科目との擦り合わせを行い、教科内容や開講期を微調整する。</p>	<p>平成24年度</p> <p>平成24年度</p>	<p>平成26年度</p> <p>平成26年度</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:情報メディア学科

2 「専門教育」の教育内容、履修方法等の改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学)</p> <p>学科内で、教員全員で議論を重ねている。 平成23年度中に方向性を確定し、パンフレットへの記載、具体的なカリキュラムへの反映等、平成24年度から逐次改善を実施していきたい。</p> <p>なお、現時点で議論に上っている方向は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会が求める新たな人材ニーズへの対応 ・ 語学を含む基礎力の重視 ・ 実習の強化 ・ 少人数教育としてのゼミの充実 ・ 自主性・考える力を養う授業へ教科内容の改変 ・ 資格取得支援 ・ 社会との関わりの重視 	<p>平成23年度</p>	<p>平成23年度 方向性の確定</p> <p>平成24年度以降 逐次実施</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 建築学科

2 「専門教育」の教育内容、履修方法等の改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学)</p> <p>※ <u>建築学科は平成18年度開設のため、今回の卒業生アンケート調査の回答者には建築学科の卒業生は含まれていないが、現在行われている学科での取り組みを以下のとおり記載する。</u></p> <p>入学試験においては、英語を選択科目にしているが、英語の基礎学力が低い学生が散見される。従来の1年次に加え、平成24年度より2年次の英語授業も必修化することになっているが、入学後の語学教育のみで語学力を向上すること自体が困難な状況にあるため、入学試験において現在選択科目になっている英語の必須化の是非、及び入学後の語学教育のあり方について、学科内で検討していく。</p>	平成23年度より学科内で検討	平成24年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:音楽学部

2 「専門教育」の教育内容、履修方法等の改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
(大学) アンケート対象卒業生は、専門分野が入り乱れた旧学科・コースの複雑なカリキュラムで学んだ世代であったため、問題意識をもった回答となっている。しかし、平成21年度の学部再編により、そうした弊害は解消したと考えている。 現在は新学科の学年進行途中であるため、キャップ制の導入他、年次経過による変化の対応に感じられないものもある。平成24年度には再編された演奏、応用音楽の両学科が完成年度を迎えるが、専門分野の強化や、資格に関する科目で新たに義務づけられた科目を組み込む必要などが生じており、改善を計画している。	平成24年度	平成25年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:薬学部

2 「専門教育」の教育内容、履修方法等の改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学)</p> <p>今回の卒業生アンケートの回答者は、現行の6年制薬学部卒業生ではなく、旧制度の4年制薬学部卒業生であるが、専門教育における大きな問題指摘はなかったと考えている。6年制課程は平成23年度が学科の完成年度であり、今後、カリキュラムの内容等について自己点検・評価を行い、改善・改革を行う予定にしている。それには、薬学教育機構による第三者評価を受ける時期との関連もあり、最適な時期を見計らいながら実施する予定である。しかし、現行のカリキュラムの中で早急に解決を行う必要のある事項については、平成24年度から改善を行うこととしている。</p> <p>その内容は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 語学関係の開講科目数が少ないことから、共通教育科目の語学の受講などを含め、改善を行う。 2) PBL※を行っている科目を調べ、全体の20%未満である場合には積極的に授業内でPBLを行うように教員に依頼する。 3) 4年生で行う専門科目の間でのまとめの科目（総合演習（I））と6年生で行う専門科目の総まとめの科目（総合演習（II））を現行の選択科目から必修科目とする。それに伴い、卒業に必要な単位数を現行の193単位から201単位に変更する。 <p>※PBL（Problem-based learning）：学生を少人数に分けて行なう問題立脚型の学習方法</p>	<p>平成24年度から取り組みを実施する</p>	<p>新カリキュラムの実施を平成26～27年を予定している</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 日本語日本文学科

3 私語のない授業対策	【取り組み時期】	【達成時期】
<p data-bbox="573 456 1146 488">【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p data-bbox="215 533 427 564">(大学・短大共通)</p> <p data-bbox="215 609 1469 673">学生の関心を喚起し学習への意欲を高められるよう、授業内容により一層の工夫をすることで、私語のない授業を目指したい。</p> <p data-bbox="215 675 1480 767">私語のない授業への具体的な対策として、履修者数に応じて一部の授業においては、座席指定制等を採用し、私語の防止に努める。また、オリエンテーションやガイダンス等においても、教員から学生に対して、私語に対する注意を繰り返し指導・徹底する。</p>	平成23年度	平成24年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 英語文化学科

3 私語のない授業対策	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p>(大学・短大共通)</p> <p>授業中の私語は、一般的にクラス・サイズに比例するのではないかと考えられる。 授業においては、少人数制の演習形式の授業が多いため、それほど私語が横行しているとは考えていないが、私語の実状を調べるために授業担当者に簡単なアンケートを行っていく。 その結果から、具体的に私語対策が必要と思われる授業科目を割り出し、その原因をつきとめ、学科会でも取り上げ解決策を探っていく。</p>	平成23年9月～	平成24年3月

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:教育学科

3 私語のない授業対策		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>学生の興味や関心を惹きつけ、学習への意欲を高めることによって私語をなくしていくことを目指している。</p> <p>そのための方策として、</p> <ul style="list-style-type: none">① 「問い」を明示し、その「問い」をめぐって考察を進める授業の創出② 自学を促す「読みたい」学習書の出版（出版プロジェクトを新設） <p>などを学科内で検討中である。</p>	平成23年5月～	平成25年3月

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:心理・社会福祉学科

3 私語のない授業対策 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>私語のない静粛な授業環境の確保は、学院および学科の教育目標の達成のために、必ず達成されなければならないとの認識を、共通認識として持つことを学科所属の教員に強く求め、そのために各教員がすべきことについても共通認識を持つようにしている。</p> <p>学生に対しては、上述の学科の私語撲滅に対する強い意志を、年度当初のオリエンテーションにおいて、文書により伝えている。また教員には、最初の授業において、私語についての各教員の考え方を学生にはっきりと伝えることを求めている。</p> <p>それでもなお私語をやめない学生がいた場合、その学生の氏名等、私語の状況を「私語報告シート」に記入し、学科に提出することになっている。その内容に基づいて、学生を呼び出し、学科長、担当教員、教務委員、担任がチームを組んで指導している。</p> <p>平成22年度より本格的に取り組んでいるこの取り組みは、着実に成果をあげつつあると考えるが、しかし授業中の私語が完全になくなったわけではない。また、少しでも気を抜くと私語が発生する状況にあることは以前とあまり変わりなく、この私語問題については、まだまだ教員が私語撲滅に向けての不断の努力を傾注することが必要であると考えている。</p> <p>教員があらためて言わなくても、学生の自主的な受講態度として私語のない授業環境が達成されそれが武庫川の「文化」として根付くことが、この問題の目指すべき到達点であり、それを目指して今後も努力していく。</p>	平成22年度～	平成24年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:健康・スポーツ科学科

3 私語のない授業対策 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>私語の無い授業は、教員にとっても学生にとっても教育目標を達成するためには、重要な課題と考えている。この課題は学科教員全員の共通した取り組みによって、学生に共通認識が生まれることを踏まえなければならない。</p> <p>年度初めのオリエンテーション、授業で私語撲滅に対する考え方や取り組み方を、教員全員で学生に伝える。平成24年度は口頭で発言するだけでなく、学科の主旨目標を紙面を使って文章によって授業中に配付し、学生に理解を求める。各教員は各自の方法で私語に対する注意を実施しており、私語が少なくなっているが、授業が中断されることも一部においてあると聞いている。私語問題については、現状の把握を資料として教員間の協議を欠かさず実施しなければならないと考えている。</p>	平成23年～平成24年度実施	平成25年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:生活環境学科

3 私語のない授業対策 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>私語は「目立つ授業もあり、対策をとるべきである」という声が、学科内でも聞かれる。 この点については、状況に応じて授業担当者が学生に対して注意するとともに、授業により関心を持たせるべく教育内容・教授の仕方の更なる魅力化、目標設定の明確化を継続して図っていく必要があると考えており、今後とも学科として私語のない授業対策に継続して取り組んでいく。</p>	平成22年度	今後とも、 継続的に 取り組みを進める

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:食物栄養学科

3 私語のない授業対策	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p>(大学・短大共通)</p> <p>1 私語撲滅のための効果的具體策を提示することは極めて困難であるが、現状をより改善するには、</p> <ul style="list-style-type: none">(1) FDとの関連のもと、個々の教員による授業の工夫(2) ガイダンスにおける指導(3) 座席の固定化(4) 少人数クラスの編成などが挙げられる。 <p>以上については、(4)を除いてすでに一部は実施中である。</p> <p>2 授業は教員と学生の相互作用で成立するものであり、実施済み私語対策が授業改善にどれほど有効であるかの評価は、授業アンケートの活用と共に学科FD委員会での議論で行っていく。</p>	平成23年度	平成25年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:情報メディア学科

3 私語のない授業対策	【取り組み時期】	【達成時期】
<p data-bbox="573 456 1146 483">【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p data-bbox="232 491 315 518">(大学)</p> <p data-bbox="244 555 1146 582">学科内の実践例から、「座席指定」が効果的なことは疑う余地がない。</p> <p data-bbox="215 587 1480 710">ただし、これが望ましい姿かどうかは疑問である。学生どうしのインタラクションが重要な意味を持つ授業も多い。私語はしないが、聴いていない、考えていない、実質的に授業に参加していない、ということは十分考えられる。もしそうであれば、それは「座席指定」の重大な副作用である。</p> <p data-bbox="215 715 1480 869">私語が無くならない原因は複雑である。基本的には、受講人数の多寡、開講時限、講義主体か実習かという授業の形態、知識の伝達か思考重視かという授業の内容、教員の力量等さまざまな要因が絡んでいる。1、2のテーマとも密接に関係している。とりあえず私語が無くなれば良いという意味では、当面「座席指定」を行うとしても、一方で原因を究明し適切な対策を講じていく努力が求められる。</p> <p data-bbox="215 874 1480 965">結局、旧来のような「教える」講義はもはや成立しないということではないだろうか。私語的にしゃべることを授業の中に取り入れてしまうような授業、学生どうしが議論しながら進めていく授業等新たな授業形態の創造が求められる。</p> <p data-bbox="244 970 1205 997">学科としては、FDの議論の中で私語対策を視野に入れた検討を行っていく。</p>	平成23年度	平成24年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署: 建築学科

3 私語のない授業対策	【取り組み時期】	【達成時期】
<p data-bbox="573 456 1146 488">【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p data-bbox="232 496 315 528">(大学)</p> <p data-bbox="215 571 1485 635"><u>※ 建築学科は平成18年度開設のため、今回の卒業生アンケート調査の回答者には建築学科の卒業生は含まれていないが、現在行われている学科での取り組みを以下のとおり記載する。</u></p> <p data-bbox="215 687 1491 815">講義においては、講義室の座席表を回覧して名前を書かせる、座席指定を行うといった工夫を担当教員に要請し、学生の顔と名前を覚えていない教員であっても、学生が特定できるようにしている。受講態度に問題のある学生に対しては、直接注意するよう担当教員に要請するとともに、継続的に問題がある学生は担任に報告し、担任が指導を行うことにしている。</p> <p data-bbox="215 818 1491 882">講評会においては、発表を聴いている学生が発表者に質問や意見を述べる機会を設けるとともに、全員の発表に対するコメントや意見を記入する用紙を配付・回収することにより、受講態度の向上を図っている。</p>	<p data-bbox="1514 687 1653 719">平成18年度</p>	<p data-bbox="1776 687 2022 783">継続的に私語対策を実施し、受講態度の向上を目指す</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:音楽学部

3 私語のない授業対策 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学)</p> <p>両学科ともに少人数であり、専門科目にはマンツーマンあるいは少人数の受講となる科目が多い。そのため、私語の問題はほぼ存在しない。現時点においても在学生アンケートなどを含め、私語に関する苦情などは出ておらず、現在の授業形態が変わらない限り、私語の問題は達成されていると考えられる。そのことを踏まえた上で、講義や演習科目においては、さらに授業の形態・運営を工夫する、教室環境を整える、といった取り組みを行い、さらに効果的に私語のない授業の実現を目指していく。</p>	平成23年度	各年度ごとに私語対策の効果を検証する

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

A 教育(制度・内容)の改善・充実に関する取り組み

A-2 各学科での検討事項

担当部署:薬学部

3 私語のない授業対策		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学)</p> <p>各学生の「自立性」を育てる教育がなされれば、自ずと私語のない授業になると予想される。しかし、薬学部では少数ではあるが私語を行っている学生が見られることから、細かなことも含め以下の事柄で対策を行っている。</p> <p>1) 初期演習の授業において、大学生の自覚等について担任から話すなかに、私語について取り上げている。</p> <p>2) 座席を指定して私語対策を行っている教員の事例と結果を確認している。</p> <p>3) 各期の最初の授業で、学生に私語に対する考え方を話し、通常の授業内では私語をしている学生に個別に注意を行っている。</p>	<p>平成21年度より取り組みを開始している</p>	<p>平成28年度を達成年度とし、その時点での状況により更なる具体策が必要かを見極める</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

B 学生生活支援の改善・充実に関する取り組み（「C」・「D」に該当するものを除く）

担当部署：学生相談センター

1 「学生の悩み」を相談・解決するシステムと周知の改善	【取り組み時期】	【達成時期】
<p data-bbox="573 427 1146 459">【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p data-bbox="232 464 461 496">（大学・短大共通）</p> <p data-bbox="212 528 1480 719">卒業年別では最近になる程、当該テーマの取り組みに対する満足度が上がっていることから、これまでの取り組みに対する理解が進みつつあるものの、全体への周知が不十分であったと考えられる。平成22年度より広報活動の充実を考え、大学ホームページのイベント欄にグループワークの案内を載せるようにするなど、センターが全学生を対象に行う行事の案内を周知できるよう努めている。（七夕の笹飾りづくり、ハロウィンのかぼちゃ作り等、季節に合ったグループワークの実施）これらの案内は学内各所の掲示板も活用することで、参加者が増加傾向になっている。</p> <p data-bbox="212 719 1480 783">また、今回のアンケートに回答いただいた卒業生の方は、卒業年次の近い方でも平成15年度であり、その頃に比べ、現在は大きく改善されたと判断している。</p> <p data-bbox="212 783 1480 943">なお保護者向けには、「保護者向けハンドブック」を平成21年度に作成した。これを平成22年度より保護者あてに発送するとともに、保護者説明会で案内するなど広報活動を行っている。その結果として、新1年生保護者からの相談が増加してきた。平成24年度に向けては、教職員向け学生サポートブックを作成中であり、4月には全教職員に配付する予定である。このことにより、学生の心理面のサポートが全学的に広がることを期待している。</p> <p data-bbox="212 943 1480 1038">さらに学生相談センターの所在場所の周知徹底については、平成21年度から入学時の初期演習の一環であるキャンパス見学ツアーで相談室をコースに入れるクラスが増加している。今後もセンターの広報に関する工夫を継続していきたい。</p>	<p data-bbox="1509 507 1704 539">平成23年度から</p>	<p data-bbox="1771 507 1912 539">平成25年度</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

B 学生生活支援の改善・充実に係る取り組み（「C」・「D」に該当するものを除く）

担当部署：学生部

3 「奨学金制度などの経済的支援」に関する周知と改善		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>（大学・短大共通）</p> <p>「奨学金制度などの経済的支援」に関する周知と改善について、学生に対する周知と連絡が不十分な部分もあったと思われる。特に日本学生支援機構の募集説明会や出願締め切りなどは、4月中に終了してしまうので再度の周知が不十分となり、時機を逸する場合もあったかと推測する。</p> <p>しかしながら、平成19年度からは各キャンパス学生への周知はもとより、幅広く周知を促すために合同教授会や学生委員会の場を通して担任を始めとする教員への周知を図るとともに、「オリエンテーションのしおり」「ガイダンス要項」「スチューデントガイド」「虹」など、学生が目にする多くの冊子に掲載し、併せて、学内掲示もこまめに行っている。このようなことから、奨学金相談に窓口を訪れる学生の第一声が「〇〇に載っていた奨学金の事を詳しく知りたい」との発言が多くなり、以前よりかなり改善され、年々満足度が上がっていると認識している。今後もより一層の周知の徹底に工夫を凝らして、経済的理由から休学や退学にいたる学生を減らしていきたい。</p>	<p>平成19年度より</p>	<p>平成24年度</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

B 学生生活支援の改善・充実に関する取り組み（「C」・「D」に該当するものを除く）

担当部署：国際交流室

4 「留学や語学研修」に関する支援の周知と改善 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>（大学・短大共通）</p> <p>平成22年度まで「交換留学ガイドブック」を作成していたが、平成23年度からはこれを「留学ガイド」として海外語学研修も含めた留学全般を網羅する冊子として、留学と語学研修の周知徹底を図った。</p> <p>また、このガイドブックやパンフレットの作成時期を早めて、入学して早い時期から留学や語学研修について周知させるようにした。</p> <p>この他、国際交流室のホームページに留学情報を掲載し、語学留学の募集に関してはMUSESに掲載し、広く学生に情報を流すようにしている。</p> <p>平成23年度から地域別教育懇談会の本部会場において、留学相談ブースを設け、学生のみならず保護者に対する留学相談を行っている。</p>	平成23年度 前期から	平成23年度

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

B 学生生活支援の改善・充実に関する取り組み（「C」・「D」に該当するものを除く）

担当部署: 学生部

5 「クラブなど課外活動への理解・支援」に関する周知と改善 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>本学の課外活動は学友会活動として実施されており、部活動を含む学生の諸活動は学友会規約に則り運営されている。そして、それぞれの活動には本学の専任教員が顧問として指導にあたっている。そのため、事件や事故を未然に防止する上で効果を発揮しているが、他大学で見られる、いわゆる「サークル」が存在しないため、リクリエーション的に軽スポーツなどを楽しむ機会が不十分ともいえる。このことに関しては、担任など教員の指導のもとで、教室などを利用して活動を行うシステムは既に構築されているので、このことの学生及び教員への周知を徹底し、より活動し易い機会づくりを「掲示板」や「合同教授会」で呼びかける。この他、近隣他大学との「サークル」活動の振興についても学友会規約の改正など課題を整理して活性化を促していく。</p> <p>また、薬学部や建築学科は中央キャンパスから離れていることから、中央キャンパスでの学友会活動には参加しにくい状況がある。この改善策として、各キャンパスでの同好会やクラブの設立について、従来の学友会組織のルールを崩さないようにしながら、認める方向で検討していく。</p> <p>加えて、平成23年度には、クラブ・同好会をはじめ、本学学生の諸活動を励まし、たたえる目的で武庫川学院応援歌を制定し機会を捉えて披露している。また、全国大会の決勝戦等に本学のクラブが進出した場合には、学生による応援バスツアーを実施している。</p> <p>以上とは別に、平成17年度から優秀な成績をあげたクラブの団体・個人に対して、「学院長賞」を授与するとともに、強化クラブを指定して、その活動が更に充実したものとなるよう支援しているところであり、今後も課外活動への理解・支援を発展させたいと考えている。</p>	<p>平成23年度後期</p>	<p>平成23年度中</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

B 学生生活支援の改善・充実に関する取り組み（「C」・「D」に該当するものを除く）

担当部署：広報室

6 在学生・保護者への効果的な「情報伝達」の工夫		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>（大学・短大共通）</p> <p>【在学生への情報伝達】 ホームページや情報誌「リビエール」「リバーサイド」などで在学生に情報を発信しているが、平成23年7月からツイッターのアカウントを開設し、ニュースやお知らせなどをツイートしている。台風接近に伴う休講情報など緊急連絡に威力を発揮し、学生から感謝のメールが広報室に寄せられている。 （参考）大学公式Twitterフォロワー（登録者）数：2,048名（平成23年11月18日現在）</p> <p>【保護者への情報伝達】 ホームページの「保護者の方へ」のコーナーで情報を発信するほか、情報誌「リビエール」を年2回、全保護者に郵送している。今後ともホームページ等を通して、保護者への情報発信をしたい。</p>	<p>「リビエール」は平成10年創刊、「リバーサイド」は平成16年創刊</p> <p>保護者向けホームページ開設は平成19年より、「リビエール」の保護者への送付は平成10年の創刊当時よりおこなっている</p>	<p>今後ともより効果的な情報伝達に引き続き努めていく</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

B 学生生活支援の改善・充実に関する取り組み（「C」・「D」に該当するものを除く）

担当部署：人事課

7 学生への対応・サービスの改善	【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
(大学・短大共通)	<p>1. 人事課での対応 アンケート調査の自由記述から「事務職員の対応が冷たい、いじめなどを見抜けない、学生への情報提供が乏しい、事務のたらい回し」等があがっているが、人事課及び教学局（教務部、学生部等）ではこれを真摯に受け止めている。学院としては十数年前から、学生サービス・窓口対応・顧客満足度・職員のヒューマンスキルアップ研修等を行っているが、いまだこのような声があがっていることに対して、しっかりと受止めるとともに、これらの取り組みを今後より一層、実効あるものとしていきたい。</p> <p>【学内研修】</p> <p>(1) 新入職員オリエンテーション（教職員全員を対象） ビジネスマナー、コミュニケーションスキルなど</p> <p>(2) 階層別研修（事務職員対象の就任2年目・中堅・管理監督職研修） 学生対応、コミュニケーションスキル、課題発見問題解決力など</p> <p>(3) 自主参加型研修（事務職員） コミュニケーションスキル、リーダーシップ、ロジカルシンキングなど</p> <p>(4) ハラスメント防止講演会、私立大学を取巻く現状認識等（全教職員）</p> <p>【学外研修】</p> <p>(1) 学生支援の事例紹介、顧客満足度を高めるための取組、クレーム対応等の各種セミナー（事務職員対象）</p> <p>(2) カウンセリング研修</p> <p>【新人事評価制度への移行：事務職員対象】</p> <p>平成19年度より目標管理による人事評価を行っている。新制度では「信頼される職員像」を明示し、評価の着眼点にも顧客満足度、学生対応等も評価対象としている。また、これに合わせて事務局全体の所属目標に「学生満足度を高める」ことを含めており、ベクトルは一つにしている。</p> <p>【その他】</p> <p>(1) 学生相談センターの人員を増員し、悩みを抱えた学生に少しでも多く対処可能なものとしている。</p> <p>(2) キャリアセンターの相談員に女性のキャリアカウンセラーを配置した。</p> <p>(3) 学生のたらい回しをなくすため「学生窓口サービス向上委員会」を立ち上げ現在、検討中である。</p> <p>2. 教学局での対応 教務部では窓口業務について学生アンケートを行い、その調査結果を課題発見問題解決行動につなげ、学生サービス改善の徹底を図っている。また、この結果もホームページで学生に公表している。現在も継続的に見直しを図るなど、日常業務の中で常に改善に取り組んでいる。学生部では所属目標の一つに学生対応を掲げて、職員の業務目標として日常業務の中で取り組んでいる。キャリアセンターでは職員の専門性を高める一つとして、CDA（キャリアカウンセラー）を取得するなど、学生サービスの向上に努めている。諸資格指導室では学生支援の一つとしてエクステンション講座を提供し、将来の進路選択の一助となるよう支援している。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 従来の履修便覧等をスチューデントガイドにリニューアルし、履修成績等の教務情報、学生生活における情報提供を豊富にするなど利便性を高めた。</p> <p>(2) ハラスメント対策委員会を組織し、教職員への意識啓蒙、学生向け学内広報誌に掲載する等の取り組みを行っている。</p>	<p>左記の取り組みについては人事課、教学局各部署においては十数年前から取り組んでおり、今後も見直しを行いながら継続的に取り組んでいく。</p>	<p>1. 人事課での対応 【学内研修】</p> <p>(1) 平成14年度から実施</p> <p>(2) 平成17年度から実施</p> <p>(3) 平成16年度から実施</p> <p>(4) 平成15年度から実施</p> <p>【学外研修】</p> <p>(1) 平成11年度から実施</p> <p>(2) 平成18年度から実施</p> <p>【新人事評価制度への移行：事務職員対象】</p> <p>平成19年度から対応済</p> <p>【その他】</p> <p>(1) 平成20年度から実施</p> <p>(2) 平成20年度から実施</p> <p>(3) 平成23年度から実施</p> <p>2. 教学局での対応</p> <p>(1) 学生窓口業務対応の一環としてアンケート実施：平成11年度から実施</p> <p>(2) キャリアカウンセラー資格取得支援：平成19年度から実施</p> <p>(3) エクステンション講座開設：平成13年度から実施</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 平成19年度から実施</p> <p>(2) 平成19年度から実施</p> <p>以上であるが、現在取り組み中のものも含めて、新たな課題にも対応すべく今後も継続して取り組んでいく。</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

C キャリア支援(資格取得)の改善・充実に関する取り組み

担当部署: キャリアセンター

1 在学生の「就職支援」に関する充実・改善 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>○ 在学生の就職支援体制整備</p> <p>(1) 就職に関する個別相談体制の充実 ・キャリアカウンセラーの有資格者1名を増員し、年間通じて配置</p> <p>(2) 教育後援会の支援による少人数制対策講座の充実 ・少人数制によるエントリーシート・面接対策講座の開催回数の確保と充実 ・少人数制によるエントリーシート・面接対策講座の開催回数の確保と充実</p> <p>(3) 卒業学年就職未決定者への支援体制の充実 ・各学科支援担当者増員による電話・面談での状況確認及び求人紹介</p> <p>(4) 中小企業への訪問及び求人依頼体制の充実 ・中小企業訪問担当者増員による新規求人の確保</p> <p>(5) ハローワーク及び就職支援業者との連携による学内説明会の開催 ・阪神間のハローワークの協力を得て、求人紹介及び相談会の実施 ・就職支援業者の協力を得て開催する中小企業学内説明会の実施</p> <p>就職支援については年間50回以上にガイダンスを開催しているが、今後は特に少人数及び個別対応の支援を充実させていく。 特に卒業学年就職未決定者支援は、個別対応を重視し、就職活動を継続できるように支援し、就職状況の改善を図っていく。また、学生にとって馴染みのない中小企業とのマッチングの機会を提供する。</p>	<p>平成23年5月開始</p> <p>平成23年10月開始</p> <p>平成23年5月開始</p> <p>平成23年5月開始</p> <p>平成23年7月開始</p>	<p>平成23年9月達成済</p> <p>平成24年2月</p> <p>平成23年9月達成済</p> <p>平成23年12月</p> <p>平成24年1月</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

C キャリア支援(資格取得)の改善・充実に関する取り組み

担当部署: 諸資格指導室

2 「資格取得、試験対策」に関する改善	【取り組み時期】	【達成時期】
<p style="text-align: center;">【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p>(大学・短大共通)</p>		
<p>1 教授特講の受講者(卒業生も受講可)の増加を図る・・・ホームページやinfo@Musesで在学生及び卒業生に向けて情報発信をする。</p>	平成24年度	平成24年度中
<p>2 教職を目指す学生のため、3年次より2つのゼミを開設し(20名×2ゼミ=40名)、集中的に個別指導できる体制を整備した。 また、ゼミ生及び短大生で教職を目指す学生のために学科(健スポ)として、特別学期の前倒し授業として、教職特別講座(15回×2期=30回)を設けて強化している。</p>	平成23年度実施済	平成23年度実施済
<p>3 (1)教育委員会との密接な連携のもと、試験対策を行っている。兵庫県・神戸市・大阪府・大阪市・堺市等の自治体以外で就職情報の入手が困難な地域については、その教育委員会や福祉事務所へ積極的に問い合わせ、情報入手活動を推進する。(2)教員採用試験に関する情報提供に関して、卒業生から問い合わせがあった場合、諸資格指導室で判る範囲の情報を提供する。(3)上記の最新情報をHPに掲載すると共に、第1・第3土曜日を活用した相談日を設ける。</p>	平成23年度	平成24年度
<p>4 (1)私立幼稚園・保育園の園長先生と連絡を密にし、園風などの情報を得る。また、現場で働いている卒業生などに協力してもらい、座談会を開き、在学生からの質問等に答えてもらう。(2)私立幼稚園・保育園に就職する学生に対して、連盟から先生方を招いて、私立が求める教員・保育士像や就職に関する、講演をお願いし、学生の就職支援をする。これは、在学生の私立幼稚園・保育園への就職を支援するために平成23年度から実施している。学生のアンケートから、今後もこのような講演会を継続し、就職内定者に対しても、平成24年2月には座談会を実施することも計画中である。</p>	平成24年度中 (一部実施中)	平成25年4月 (一部実施中)
<p>5 本学の「立学の精神」に立脚した全人的教職実践力を形成すべく、教員養成の質的保証システムの構築並びに教職キャリア支援策として、これまでの取り組みを踏まえ、以下の流れに即して諸課題に取り組む。 【教職課程導入段階】→【教育実習事前事後指導の徹底】→【教員採用試験準備対策の指導<大学3年次・短大1年次11月～卒業学年次8月>】→【採用試験出願書の指導<4・5月>】→【1次採用試験直前の指導<6・7月>】→【2次採用試験前の指導<8・9月>】→【採用試験後のフォロー・アップ<8～10月>】→【教職実践演習<卒業学年次9月～1月>】までの教職指導体制を関連学科と協力して強化する。 → 関連学科による教職支援対策取り組みとの具体的連携プログラムの構築を検討する。従来の教職特講をベースに、例えば、以下の教職キャリア支援プログラムを「追加」提供する。 ①小学校2種免許取得希望者を対象に、各学科においてその特性を活かした専門科目と学校教育との連携科目を共同設定し、特色ある小中教員養成をプログラムする。②小学校2種免許取得希望者を対象に、「小中学校ボランティア体験」や「小学校教育実習の事前事後指導」の機会を充実させ、小中学校教員採用試験の合格者数を関連学科と協力して増やす。③「一般教養及び幼小中高教科・保育内容(専門教養)」を視野に入れた教員採用試験対策講座の教職課程開設学科＝諸資格指導室連携プログラム(教職特別講座)の編成とその公開講座化を図る(本学関係学生のみに)。併せて、エクステンション・プログラムの公開についても関連情報を積極的に提供する。同時に、教職志望の既卒者をも含めて、教員採用試験出願者数及び合格者数を増加させる工夫と努力を重ねる。④共通教育カリキュラムの中に、基礎的学力及び技能の確認と発展学習を含む授業科目を開設し、これらを教職推奨科目に指定し、積極的な受講を促す。 上記の①②③のプログラムは、特別学期や夏季公開講座(卒業生も対象)などで一括開講する。</p>	平成24年度より 検討開始	平成25年度
<p>6 (1)附属図書館のホームページに、資格コーナーのページを設ける。各学科や教職専門員の先生方から得た情報から、推薦図書やおすすめの本を紹介し、ホームページに載せる。(2)保・幼・小・中・高・特支・栄教の全教育内容・全教科に係る資料(特に、教科書・指導書・指導案類、道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動・特別支援教育・人権教育・情報教育・環境教育・国際理解教育・安全教育・食育・学級経営・生徒指導・学校経営・教育行政等の教職実践に係る参考資料・DVD教材などを含む)を、中央図書館の特定コーナー【教職コーナーなど】に複数セット整備し、教職課程履修学生の学びを資料面で支援する環境を整える。(3)保・幼・小・中・高・特支・栄教の採用試験問題集や保育士資格試験及びその他公務員採用試験問題集、関連雑誌等を、中央図書館の特定コーナー【教職コーナーなど】に複数セット整備する。(4)実習生・卒業生が自由に活用できるよう、土曜日等にも利用できるように配慮する。</p>	平成24年度中 (平成20年12月の中教 審・ 文科省実地視察時の 指摘事項)	平成25年4月

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

D 施設等の改善・充実に関する取り組み

担当部署: 学生部

1 「学生の交流スペース」の充実	【取り組み時期】	【達成時期】
<p data-bbox="573 427 1149 459">【現状をより改善・充実させるための具体策】</p> <p data-bbox="237 467 483 499">(大学・短大共通)</p> <p data-bbox="215 536 1505 635">これまでも、キャンパス内の空地や館内の廊下等にベンチの設置に努めているが、更に学生が快適に学内で過ごすことができるような交流スペースの充実については、学生の要望に基づいて、施設部等関係部局とともに、検討を進めていきたい。</p> <p data-bbox="215 639 1505 738">また、学友会活動の拠点施設（学友会各委員会室、クラブ・同好会の部室）の整備についても、以前から学友会から様々な要望があるので、キャンパス整備計画の中で検討を進めていきたい。</p>	平成23年度	平成24年度以降で、可能なところから出来る限り早く実現させたい

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

D 施設等の改善・充実に関する取り組み

担当部署: 図書館

2 「図書館」の利用時間や「蔵書」の充実			
【現状をより改善・充実させるための具体策】		【取り組み時期】	【達成時期】
(大学・短大共通)			
<p>1. 「図書館」の利用時間については、これまでも多くの利用者から要望があり、その度ごとに検討を重ね、対応してきた経緯がある。また図書館委員会委員より提案されたり、利用者（学生・院生等）からの意見・希望等は、「意見箱」を設けており、その中に入っている場合がほとんどである。今回の卒業生アンケート調査では多くの方々が図書館利用について、要望を出されている。図書館は、その解決方法を今年度の図書館HPのリニューアル（平成23年9月14日）に盛り込んだ。その利用案内の中で、卒業生、保護者への利用方法を判りやすく記述しているので利・活用して頂きたい。なお、現時点での時間外開館やすべての休日開館については、ランニングコスト面（利用者数、電気、ガス、水量、人件費等）で困難であると考えている。</p> <p>2. 「蔵書」の充実については、1. と同様にこれまでも多くの利用者より、いろいろな資料の要望があり、その度ごとに図書資料の充実・整備を考えて検討を重ね、対応してきた経緯がある。これまでの要望は、主に図書館委員会委員より提案されたり、利用者（学生・院生等）からの希望等である。そのために図書館委員会での審議、「購入希望図書箱」をカウンターに設け、利用者の希望を聞き、図書館はその都度対応している。今回の卒業生アンケート調査では多くの方々が取得したい資格・免許について、希望を出されている。図書館では就職活動のための最新の資料及び関連資料を揃えるため、毎年、資格・免許関連資料については整備・充実を図っている。図書館はこれらの課題解決を図りながら卒業生、保護者への利用について配慮し、これからも対応していきたいと考えている。</p>		<p>現在の開館時間(20時まで)は平成11年度より実施。</p> <p>蔵書の充実・整備は、継続的におこなっている。</p>	<p>図書館利用案内の充実は平成23年9月ホームページのリニューアルにて実施対応済（第1段階）平成24年度に国際化への対応を予定（第2段階）</p> <p>今後とも継続して蔵書の充実・整備に努める。</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

D 施設等の改善・充実に関する取り組み

担当部署:情報教育研究センター

3 「情報処理関係施設や機器」の充実	【取り組み時期】	【達成時期】
<p data-bbox="232 469 461 496">(大学・短大共通)</p> <p data-bbox="224 544 819 571">1. 情報処理関係の施設や機器の充実について</p> <p data-bbox="217 576 1496 799">情報教育研究センターが管理・運営している全学共用のパソコン実習室・パソコン台数は、平成14年に6教室300台から15教室1,000台に増加し、現在は若干減少しているものの性能面で最新のものを定期的に更新している。また、各学科が運営しているパソコン台数も平成14年当時より年々増加し2,000台以上となり、全体で見ると学生3人にパソコン1台という比率となっている。これらを踏まえると、卒業年度により、機器の充実に対する意見の意味が異なり、大学は平成16年、短大は平成14年以前の卒業生は、現在のような豊富な情報機器の恩恵に浴することができなかったと考えられる。したがって現状で一応の充実は、図られていると思われる。</p> <p data-bbox="224 876 848 903">2. 情報機器を活用した情報教育の充実について</p> <p data-bbox="217 908 1485 1067">情報教育研究センターでは、従来の情報教育の在り方を見直し、平成13年度以降、情報基礎教育を入学時に全学規模で実施する体制を構築し、現在も続けている。意見の多くは、この授業を受講できなかった卒業生のものと考えられる。また、比較的最近の卒業生から「もっと上級の内容を学習したかった」や「社会に出て役立つ機能を身につけたかった」というような意見に対しては、平成25年度より実施を検討している情報教育改革で実現していく方向である。</p>	<p data-bbox="1547 876 1693 903">平成23年度</p>	<p data-bbox="1823 876 1968 903">平成25年度</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

E 卒業生への支援に関する取り組み

担当部署: キャリアセンター(諸資格指導室)

1 卒業生の「離職時における再就職支援」に関する改善 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>○ 卒業生専用の再就職支援整備</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 卒業生専用HPの開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人情報の閲覧 大学及びオムロンパーソネルが保有する既卒者を対象とした求人情報を提供 ・セミナー情報の閲覧 関西圏で開催される就職活動に役立つセミナー・イベント情報を提供 <p style="margin-left: 20px;">(2) キャリアカウンセラーによる丁寧なサポート</p> <p style="margin-left: 40px;">専任のキャリアカウンセラーがキャリアプランについて、疑問や不安に感じていること等丁寧に対応する。</p> <p>就職支援サイトにて最新の求人情報を公開し、就職セミナーなど、就職活動に役立つ情報を配信する。また悩みや不安には、キャリアカウンセラーが一人ひとりにあった内容のアドバイスを行っていく。</p>	<p>平成22年9月開始</p>	<p>左記内容については概ね達成済であるが、今後もより充実した支援ができるよう支援についての広報及びニーズにあった内容の提供に努める</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

E 卒業生への支援に関する取り組み

担当部署: 諸資格指導室(キャリアセンター)

1 卒業生の「離職時における再就職支援」に関する改善 【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
(大学・短大共通)		
1 (1)卒業学年に対して、特別学期のガイダンス時及び卒業式予行の時に、教員就職希望者に進路希望調査用紙を提出させ、データ化する。(2)卒業後、4月30日現在決定進路が「講師登録」となっており、就職が未決定となっている学生のデータを集める。(3)毎年このような形で教員就職を希望する学生のデータを蓄積する。	平成23年12月～ 平成24年2月上旬	平成24年5月
2 キャリアセンターが行っている卒業生への支援システムが、諸資格指導室としても利用できるものかどうかを検討し、メリットがあるようであれば、それを利用するようにする。	平成23年10月	平成24年3月を目処とする
3 大学ホームページの「資格取得支援(諸資格指導室)」において、教職に係る情報(教員免許の上級・上級免許状又は専修免許状・異校種免許状の取得方法など)及び 詳しい求人情報(新設)を閲覧できるようにする。	平成23年10月	平成25年4月
4 (1)大学パンフレットにエクステンション講座のページを設ける。(2)諸資格指導室のホームページの「エクステンション講座」の内容を充実させる(どういった講座が受けられるのか、また、開講時間割など詳細を掲載する。)又、各学科のHPでも詳細を広報する。ただし、平成25年度からは、複数部署がばらばらに開設しているエクステンション講座をキャリアセンターで一元的に開設するように検討する。	平成24年度中	平成25年4月

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

E 卒業生への支援に関する取り組み

担当部署: 鳴松会・教務部

3 「専門知識」「教養」を深めるための支援		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>1. 図書館利用に関して 鳴松会員が図書館を利用できることを周知徹底する広報活動を行う。</p> <p>2. 資格・免許取得の支援の要望に関して 科目等履修生の制度を案内する。</p> <p>3. 「専門知識」、「教養」を深めるための講座 (1) 特別学期の教養講座を案内 平成22年度は、卒業生に対し112科目、約2,000名が受講できるようになっている。 受講料は無料であり、このことを周知徹底する広報活動を行う。 (2) 一度教養講座に出席された方には、次回の案内をするとともに、教養講座を広める。 (3) 鳴松会員が教養講座を主催する数を増やす。 (4) 支部総会の際に教養講座を設ける。 (5) 各学科プログラムを増やし、広報活動を行う。</p> <p>4. 海外研修を主催する。アンケート調査から始める。</p>	<p>1, 2, 3.-1), 2) は平成23年度 3-4), 5), 4. は平成24年度</p>	<p>平成26年度</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

E 卒業生への支援に関する取り組み

担当部署: 鳴松会

4 「施設」の利用	【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>卒業生が大学施設の利用を希望する場合、鳴松会に問い合わせがあった際には、学内関係部署と連絡を取りながら手続きを進めているが、卒業生にとっては、具体的な手続き方法や問合せ先がわかりにくいいため、なかなか大学施設を利用しにくいという状況にあると考えられる。</p> <p>今後は、施設利用の方法や問合せ先については、鳴松会ホームページや鳴松会報等に掲載し、卒業生に対して周知を図っていきたい。</p>		卒業生が施設利用を希望する際の対応は、従来から行っている	施設利用方法の周知について、早急に検討し、ホームページ等に掲載する

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

E 卒業生への支援に関する取り組み

担当部署: 鳴松会

5 「同窓会活動」への支援の充実・「同種の職業や境遇」の事例紹介の情報や相談の場の設定		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>1. 61支部（国内：59支部、海外：2支部）に対しては、総会開催時に依頼があれば学院在職の先生方へ出席していただき、学院の現状報告や親睦を深めていただいている。今後も中学、高校、大学の各学科の先生に現状報告だけでなく、講演もお願いしたいと考えている。</p> <p>2. 図書館利用とともに卒業生より要望の多かった「学校施設の利用」に関しては、平成24年度より、健康・スポーツ科学科主催のスポーツ施設利用事業への卒業生の参加が認められることとなり、機会ある毎に会員に案内を行う。 今後は、中学、高校、大学の各学科にお願い、機会の拡大に努めていく。大学であれば、これまでの学科プログラムの一環として、可能な範囲で何らかの提案をしていただくことをお願いすることから始めたい。</p> <p>3. 平成23年8月より、鳴教会関東支部が帝国ホテルタワーにある本学の東京センターにおいて、「教育相談・コミュニティひろば」を開設している。その趣旨は、近年関東においても教職に就き活躍している卒業生が多くなり、関東在住の教員OGの方々が、遠く故郷を離れて活躍する若い卒業生に何かお手伝いをしたいとの思いで開設された。日時は、毎月、第1水曜日の夕方、第3土曜日の午後で、内容は、教職の方には、教育相談（学級経営、教材研究、学校事務、保護者の学校や指導についての要望に関しての対応、児童生徒の理解や生活指導の課題、等）、また、企業に勤務の方々の人間関係の悩み相談等である。</p> <p>4. 平成21年度から、関東方面に就職している卒業生を対象に、東京で「卒業生の集い」を開催し、多くの卒業生が情報交換を通じて親交を深め、新たな絆を結ぶ機会を設けている。この集いには、学長も可能な限り参加するほか、帝国ホテルタワーの本学東京センターが卒業生の拠り所となることに期待したものであるが、年々その輪が広がってきている。</p> <p>5. 卒業生より要望の多かった就職支援に関しては、鳴松会ホームページに、情報交換のためのコミュニティページを設けることを検討している。</p>	<p>3. は平成23年度 1. 2. 4. は平成24年度</p>	<p>平成26年度</p>

「卒業生アンケート調査」調査結果に対する検討事項

E 卒業生への支援に関する取り組み

担当部署: 鳴松会

6 卒業生への効果的な「情報伝達」の工夫		
【現状をより改善・充実させるための具体策】	【取り組み時期】	【達成時期】
<p>(大学・短大共通)</p> <p>1. 「鳴松会報」の閲覧率は7割強であることから、会員へ会報が確実に届くよう、会員の住所確認、住所不明者をなくす努力を最大限行っていく。また「鳴松会報」は、卒業後の年数が経過した方が閲覧率が高いことから、最近卒業した方々にも「鳴松会」を知っていただく努力を行う。</p> <p>2. 1.とは反対に、大学ホームページは、卒業後の年数が短い方のほうが閲覧率が高い。ホームページの「卒業生の方へ」から「鳴松会」に入っても住所変更の項目がすぐに見当たらないので、ホームページを見やすく、かつ充実したものにしたい。</p> <p>3. 2.に関連するが、大学ホームページと鳴松会ホームページに、在学生と卒業生の情報交換のためのコミュニティーページを設け、学生には在学時から「鳴松会」を知ってもらい、卒業生は学生の考えを知る機会とし、悩み相談にも応じるなど交流の場としたい。</p> <p>4. メールの活用も考えるべき時かもしれないが、どのような単位を考えてどのように管理し、継続するか、これからの課題と考えている。</p>	<p>1. 2. は平成23年度 3. 4. は平成24年度</p>	<p>平成26年度</p>